年頭所感

「自己変革、そしてコロナ禍からの再起を」



福岡商工会議所 会頭 谷川浩道

謹んで新春のご挨拶を 申し上げます。

昨年6月から、福岡商工会議所・会 頭を務めております。

本年も、役員・議員、職員一丸と なって「商工業の改善・発達と福岡の 発展」のために、全力で取り組んでま いりますので、どうぞよろしくお願いい たします。

令和3年(2021年)を振り返って

昨年も新型コロナウイルスに翻弄さ れた一年でした。度重なる感染拡大の 波によって、社会・経済活動が繰り返 し制限され、また自粛の連鎖により、 日本全体に閉塞感と不安感が広がりま した。

当所は、この一年間、「コロナ禍への 対応」を最優先に活動してまいりました。 一昨年に続き、経営相談の窓口で

は、国や県・市による支援施策につい て、制度の説明や申請書の作成などき め細かい支援に努めてまいりました。 また、コロナ禍で冷え込んだ消費を喚 起するために、福岡市内全域で使用 できる総額60億円の電子商品券 「FUKUOKA NEXT Pay (通称・ネクス ペイ)」の発行事業にも取り組みました。

さらに、昨年7~8月には、福岡地 域におけるワクチン接種を加速させる ため、医療機関や福岡市その他の関係 機関と連携し「ワクチン共同接種事業」 を実施しました。その結果、会員企業 723 社約 6,000 人のワクチン接種が実 現しました。

このほか、各種会議やセミナー、商 談会などについても、オンラインを活 用するなど積極的に事業を実施してま いりました。

おかげさまで、当所の新規会員入会 数は増加しており、この結果は、当所 に対する会員の皆様からの強い期待の

表れと受け止めています。

令和4年(2022年)の抱負

国内では、感染者数の落ち着きとと もに、日常生活や経済活動の本格的な 回復に向けた動きが加速しています。 依然として予断を許さない状況ですが、 福岡商工会議所では、この動きが再び 止まらないよう、感染拡大防止と経済 活動の両立を図りながら、積極的に活 動してまいります。

一方、世界に目を向けると、変異株



新型コロナウイルスワクチン共同接種

の感染拡大や原油・原材料価格の高 騰、米中摩擦など不安定要素が山積し ています。日本においては、円安が原 油・原材料費の高騰をさらに押し上げ ており、コロナ禍からの回復の足かせ となりかねない状況です。

現在のように変化が激しい時代を企 業が生き抜くには、生産性や競争力の 向上のために、たゆまぬ「自己変革」が 求められます。この「自己変革」の流れ が、わが国の企業数の99.7%を占め る中小企業・小規模事業者に浸透すれ ば、日本経済の成長の大きな力となる ことは間違いありません。

こうした認識を踏まえ、当所では 「自己変革」にチャレンジする事業者を 後押しするため、次の2点に注力してま いります。

◆ポストコロナを見据えた 中小企業の挑戦を後押し

コロナ禍の2年間、多くの事業者が 事業維持・雇用維持のための緊急対応 に追われてきました。しかし、経済活 動が徐々に再開してきたことで、当面 はウィズコロナの下であっても、事業 者の関心は、ポストコロナを見据えた 「将来」に向いてきています。

コロナ禍で顕在化したデジタル化の 遅れや、感染症や自然災害への備えな どの様々な課題、さらに近年関心が高 まっている環境問題は、見方を変えれ ば新たな成長へのシーズです。実際、 業態転換や新分野への進出といった事 業の再構築を試みる企業や、デジタル 化・DXなど変革への挑戦を始める企 業も出ています。世界に目を向けると、 「カーボンニュートラル」「SDGs」など を企業変革の新たな旗印として掲げて いる企業も数多く見られます。

社会経済の環境変化をチャンスと捉 えて、中小企業・小規模事業者が様々 な課題に対応し、新たな成長に向けて 活動ができるように、当所では、引き 続き、事業者に寄り添う「伴走型」の 支援を積極的に行ってまいります。

◆デジタル化・DX[※]の推進

※デジタルトランスフォーメーションの略

コロナ禍で官民ともに「デジタル化」 が大きく遅れていることが明らかになり ました。企業において、限られた経営 資源で最大限の成果を出す「生産性向 上」は待ったなしの課題です。その手 段として、デジタル化が大変有効であ ることが分かっています。

大切なのは、経営者自身がデジタル 化の意義をしっかりと認識し、企業経 営の中で実践し、変革につなげていく ことです。当所では、中小企業・小規 模事業者のデジタル化・DX推進に向 け、一層力を入れてまいります。

「捲土重来」 ーコロナ禍からの再起を一

このコロナ禍によって、弱点を突か れ、私たちの社会経済は大きな打撃を 受けました。しかし、この危機から学 んだことを肝に銘じながら、攻めの姿 勢で今年こそは再起を果たしたい。

そうした思いから、今年の言葉には 「捲土重来」を選びました。

この言葉は、「一度敗れた者が、再 び勢いを盛り返して巻き返す」という意 味の故事成語です。「捲土」には、土煙 が巻き上がるほどの激しい勢い、そし て「重来」には、一度去った者が再び やってくるという意味があるそうです。



感染防止対策を徹底して実施した会員交流会

また、今年の干支は「壬寅」です。この 年は、「厳しい冬を越えて芽吹き始め、新 たな成長の礎となる」と言われています。

本年が、長く苦しかったコロナ禍を 乗り越え、寅のごとく勇敢に「捲土重 来」を期して、新たな希望や成長に向 かって突き進んでいく一年になることを 願っております。

福岡市は、「天神ビッグバン」や「博 多コネクティッド」といった大規模な都 市開発によって、街が大きく変貌を遂 げようとしています。また、今年は FINA世界水泳選手権 2022 福岡大会 の開催や、福岡市営地下鉄七隈線の延 伸開業も予定されており、「元気な街・ 福岡」のさらなる躍動が期待されます。

福岡商工会議所は、地域総合経済団 体として、皆様の期待に応えられるよ う、総力を挙げて、福岡の活力創出に 向け、邁進してまいります。

最後になりますが、本年も私ども福 岡商工会議所へ変わらぬご支援とご協 力を賜りますようお願いするとともに、 本年が皆様にとって明るい未来を展望 できる年になりますよう、心より祈念 いたします。





地域とともに、 未来を創る

日本商工会議所会頭 三村 明夫

明けましておめでとうございます。 2022年の新春を迎え、謹んでお慶び申しあげます。

昨秋以降、国内では新型コロナ新規感染者数が低位で推移 し、本格的な日常生活回復に向けた動きが加速する中で新年 を迎えられたことを皆さまと共に喜びたいと思います。

海外での感染再拡大などもあり、先行きの見通しは予断を 許さないものの、商工会議所は、本年を感染防止と社会経済 活動をより高い次元で両立させる年と位置付け、地域経済な らびにそれを支える事業者の皆さまの発展のため、引き続き 全力を尽くしてまいります。

さて、コロナ禍で急激に落ち込んだ経済もようやく回復基 調に転じましたが、依然力強さを欠き、業種や規模により回復 度合いが異なる「K字型回復」の状況が続いています。国民全 体を覆う閉塞感を真に打開するためにも、昨年政府が決定し た「新たな経済対策」の着実な実行はもとより、国民が日本の 将来について明るい希望を抱けるような、新たな成長と発展へ の道筋を明確に示す必要があります。

第2次岸田内閣の発足以降、政府は「新しい資本主義」を掲 げ、「成長と分配の好循環」「コロナ後の新しい社会の開拓」に 向けて議論を重ねてきました。私はコロナ禍を通じて、「強く豊 かな国でなければ有事の際に国民を守ることができない」と 改めて認識しましたが、日本を危機に対するレジリエンスを備 えた強い豊かな国にするためには、コロナ禍で明らかになった 社会課題の解決と経済成長を車の両輪として同時に実現する ことが必要です。

少子高齢化に向かう人口動態等、様々な構造的課題を抱え るわが国が、社会課題を解決すると同時に経済成長を図るた めには、一国の豊かさを示す総合的な指標である「1人当たり GDP」の引き上げを国全体の目標として掲げ、あらゆる分野 での生産性向上と潜在成長率の底上げを図る必要がありま す。特に、雇用の約7割を占める中小企業の生産性を引き上げ ることは、ひいてはわが国全体の生産性の向上につながる重 要な課題です。他にも、経済・医療安全保障、成長を支える基 盤である人材育成や科学技術研究への投資、デジタル化の推 進、「S+3E」の原則を踏まえたバランスの取れたエネルギー 政策と技術革新等が不可欠です。通商面では、TPPやRCEP の成果を踏まえ、同じ考えを持つ国々との連携を深めつつ、引

き続き日本が自由貿易体制推進において主導的な役割を果た すべきです。

こうした課題認識を踏まえ、われわれ商工会議所は本年、特 に以下3点について重点的な取り組みを実行してまいります。

第一は「デジタル活用による中小企業の体質強化」です。こ れまでも幾多の困難を乗り越えてきた日本の中小企業は、 様々な変化に柔軟かつ迅速に対応できる潜在的な変革力を有 しています。中小企業経営へのデジタル活用は、生き残りをか けた自己変革の有力な手段であり、コロナ禍で加速したデジタ ル化の流れを、業務効率化に留まらず、越境EC等を通じた販 路拡大、さらには業態転換などのビジネス変革にまで広げる 経営力向上の柱として強力に支援してまいります。

第二は「事業再構築、取引適正化等を通じた付加価値の向 上」です。商工会議所による伴走型の経営相談体制の強化に より、事業承継や事業の再生・再構築を後押しし、経営の効率 化や付加価値創出力の向上を強力に支援してまいります。ま た、大企業と中小企業で構成されるサプライチェーン全体で、 創出した付加価値やコストをフェアに分かち合う取引適正化 も不可欠です。登録企業が4千社を超えた「パートナーシップ 構築宣言」は、官民連携でこれを実現するための有力なプラッ トフォームであり、今後は宣言の実効性をより高め、中小企業 の付加価値向上、ひいては日本全体の成長力の底上げに寄与 してまいります。

第三は「地域ぐるみの地方創生の推進」です。東京一極集中 と言われますが、実際には一次産業の成長産業化、インフラ整 備を通じた製造業の集積、インバウンド需要の取り込みなど を進めてきた地方圏の方が、東京圏よりも高い経済成長率を 実現しております。コロナ禍を契機としたさらなる地方分散化 の動きもみられる中、政府の「デジタル田園都市国家構想」も 踏まえ、こうしたモメンタムを地方創生の加速化につなげてい くことは、レジリエントな日本の国土形成のためにも不可欠で す。商工会議所は、地域総合経済団体として地域の多様な主 体との連携を深め、地域ぐるみの地方創生をさらに後押しして まいります。

最後に、日本商工会議所は今年で創立100周年を迎えま す。「地域とともに、未来を創る」をスローガンに、次の100年 に向けて、中小企業の活力強化と地域活性化による日本経済 の持続的な成長の実現を目指し、515商工会議所と連合会、 青年部、女性会、海外の商工会議所とのネットワーク力を最大 限活用し、新しい時代を皆さまと切り拓いてまいりたいと思い ます。引き続きのご支援、ご協力をお願いして、私の年頭のあい さつとさせていただきます。



令和4年 年頭所感

九州経済産業局長 後藤 雄三

令和4年の新春を迎え、 謹んでお慶び申し上げます。

昨年8月の大雨により、亡くなられた方々の御冥福をお祈りいたしますと ともに、被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。被災地に 丁寧に寄り添いつつ、一刻も早い復興に向け、関係機関と連携して全力で取 り組んでまいります。

近年、デジタルトランスフォーメーションやカーボンニュートラルといった 社会変革の波が訪れる一方、新型コロナの感染拡大は、人々の暮らしや働き 方、価値観に大きな変化をもたらしています。世の中は複雑性を増し、今後 の先が見通せない時代に入りつつあります。

九州でも産業やエネルギー供給の構造変革が見込まれる中、これらに対応 するためには、過去の延長線で考えるだけではなく、新しいイノベーションを 興していくことが非常に重要です。

九州経済産業局では、ウィズコロナを見据え、次の時代を創る新しいチャレ ンジを積極的に支援すべく、あらゆる施策を通じて、九州経済の持続可能な 成長の実現に向けて取り組んでまいります。

デジタル技術の活用による生産性や付加価値の向上、ウィズコロナに対応 した事業の再構築を支援します。

また、経済安全保障の観点からサプライチェーンの強靱化を図り、供給体 制に支障が生じた半導体分野では「シリコンアイランド九州の復活」に向けて、 人材育成や設備投資を支援します。

中小企業の経営課題に即した必要な人材像を明確化し、多様な人材の活躍 を推進するとともに、円滑な事業承継と新たな価値創造を図るため、マッチ ング支援等による後継者探しや税制措置などに加え、未来の九州を担う次世 代経営層 (アトツギ) による事業の「再創造」など、新たな挑戦に寄り添った 支援を行います。

近年頻発する自然災害に対応するため、自治体や関係機関とも幅広く連携 しつつ、BCP策定支援等を通じた中小企業の事業継続力の強化に取り組み

アジア地域等との経済交流を引き続き推進するとともに、九州産本格焼酎 を含む「食」の輸出拡大や、地域の特色を活かした新製品の開発や販路開拓、 外国人留学生の採用支援など、企業の海外展開を支援します。

地域の社会・経済の未来を描く上で重要なSDGsの取組を関係機関と協力 して進めます。

エネルギーの安定供給確保に万全を期すとともに、「2050年カーボンニュー トラルの実現」に向けて、九州が豊富なポテンシャルを有する洋上風力や太陽 光等の再生可能エネルギーの適正な導入を促進します。九州で最先端の研究 開発が進む水素利用や、省エネルギーの推進、環境・エネルギー産業の振興 にも引き続き取り組みます。

また、中小企業が「脱炭素」に円滑に対応できるよう、普及啓発や各プレー ヤーの糾合、社会実装を推進します。

九州は、豊かな自然環境に恵まれ、自動車や半導体などの基幹産業に 加え、農林水産業、食料品、ヘルスケア、バイオ、環境・エネルギーなど 高いポテンシャルを持つ産業があり、優れた技術やサービスを有する企業も 数多く存在します。新型コロナを乗り越えたその先の輝かしい未来のあり方を 世界に発信できる、そうした地域です。

九州が輝くことで、日本を照らし、アジアを照らし、世界を照らす。そう したことができるように九州から具体的な成功モデルを数多く生み出し、九州 が持続的に発展していけるように、関係機関の皆様とともに、職員一丸と なって取り組んでまいります。

本年が皆様方にとって実り多き飛躍の年になることを願いまして、新年の 御挨拶といたします。



今和4年 年頭所感

福岡県知事 服部 誠太郎

新年あけましておめでとうございます。

昨年4月に知事に就任して以来、私は、新型コロナウイルス感染症対策や5 年連続となった大雨災害の被災地の復旧・復興に全身全霊で取り組みました。

新型コロナ対策については、外出自粛や飲食店の時短営業などの厳しい措置 に対する県民の皆さまのご理解とご協力に心より感謝を申し上げます。

目まぐるしく変化する社会情勢の中、「世界から選ばれる福岡県」を実現すべ く、今年は成長・発展の歩みを力強く進めていきます。

まずは、コロナ危機の克服です。感染拡大に備え、保健・医療提供体制を強化 するとともに、3回目のワクチン接種を着実に進めます。ワクチン・検査パッ ケージや感染防止認証制度を活用し、社会経済活動との両立を図り、疲弊した 地域経済を立て直していきます。

今年の干支「寅年」は、春が来て草木が伸び始めることを表わします。世界を 視野に、未来を見据えて、福岡県を発展させていくため、新しい成長を生み出す 年にします。

このため、次の4つに重点を置いて取り組みます。

第一に、「次代を担う『人財』の育成」です。

本県の発展を担うのは「人」です。子どもたちが、県内どこでも充実した教育が

受けられる環境を整えていきます。産業・経済、スポーツ、文化・芸術などさまざ まな分野において活躍し、担い手となる人財の育成に力を入れます。中小企業 や農林水産業のDXを進めるとともに、その担い手となる人財の育成に取り組 みます。

第二に、「世界から選ばれる福岡県の実現」です。

本県の優位性を生かし、デジタル社会を支えるインフラである大規模データ センター誘致や先端半導体拠点の構築に向け、戦略的な企業誘致を進めます。 産学官による「TEAM FUKUOKA」で連携し、国際金融機能の誘致を目 指します。

第三に、「成長産業の創出」です。

本県は、バイオ関連企業の集積などが評価され、昨年、国から「地域バイオコ ミュニティ」第1号として、西日本で唯一、認定されました。未来を見据え、バイ オ、ロボット、宇宙ビジネス、ブロックチェーンといった新たな成長産業を創出し ていきます。また、響灘沖の洋上風力発電の促進区域への早期指定の実現や、 CO2フリー水素の製造・拠点化に取り組み、関連産業の集積や中小企業の参 入を促進するとともに、脱炭素社会の実現を目指します。

第四に、「ワンヘルスの推進」です。

「福岡県ワンヘルス推進行動計画」を策定し、ワンヘルス実践の中核拠点「ワ ンヘルスセンター」の整備を進めます。また、今年11月に本県で開催される「ア ジア獣医師会連合(FAVA)大会」を機に、本県のワンヘルス推進の取り組みを アジア、そして世界に向けて発信します。

同時に、地方創生の基本である住み慣れたところで「働く」、長く元気に「暮ら す」、お子さんを安心して産み「育てる」ことができる地域社会づくりを進めます。

これらを進め、本県を九州のリーダー県としてふさわしい県に飛躍・発展させ、 県民の皆さまが安心してたくさんの笑顔で暮らせる福岡県にしてまいります。 新年が皆さまにとって、素晴らしい一年となるよう心からお祈りいたします。



世界から尊敬され、 選ばれる都市へ!

福岡市長 髙島 宗一郎

あけましておめでとうございます。 新年の始まりにあたり、謹んでお慶びを申し上げます。

2021年は、新型コロナウイルスの影響が続く一年となりまし たが、一方で、福岡市はコロナ対策の切り札となるワクチン接種 を、大都市の中でもトップクラスのスピードで進めることができ ました。福岡商工会議所をはじめ事業者のみなさんには、職域 接種や感染拡大防止にご協力いただき感謝を申し上げます。

今後もコロナの状況には注視が必要ですが、市民や事業者 のみなさんがポジティブなマインドを持てる、そんな2022年 になるよう、福岡市も新たなチャレンジを行っていきます。

まずは、世界水泳選手権がいよいよ福岡で開催されます。日 本や世界が未来に踏み出すきっかけとなるよう、全力で大会を 成功へと導きます。また、2023年に開催されるG7サミットの 誘致にも名乗りを上げました。これから2年間で日本も大きく 変化しなければなりません。その変化の象徴となるのが、福岡 市だと自負しています。高いハードルですが、福岡県、地元経済 界と共に全力で挑戦します。

街づくりに関しては、エリアごとに個性がある福岡市の特徴 をいかし、コントラストのあるまちづくりを進めます。都心部で は、天神ビッグバン、博多コネクティッドにより、今後、ビルの建 替えが目に見える形で一気に進みます。新たな雇用やビジネ スが生まれることで、福岡市は優秀な人材や若者が自己実現 でき、夢を叶えることのできる街になっていきます。

また、博多部の歴史・伝統・文化を際立たせる「博多旧市街 プロジェクト」や身近な自然の魅力を高める「Fukuoka East&West Coastプロジェクト」など、数々のプロジェクトが 進行中です。さらに、アーティストやクリエイターの活動を支援 し、市民が街なかで文化や芸術に触れる機会も創出していき ます。

世界ではウェルビーイング、ダイバーシティ、脱炭素といった 要素が意思決定の重要な判断基準となり、あらゆる分野で、人 や組織の行動変容が起こっています。福岡市はこれまでも「人 と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」の 実現に向けて取り組んできましたが、今後も世界から尊敬さ れ、選ばれる都市であり続けるため、「人」、「環境」、「都市活 力」、それぞれの要素をさらに高い次元で調和させていきたい と考えています。

最後に、みなさまの今年一年のご健勝とご活躍を心から祈 念し、新年のあいさつとさせていただきます。

